【　平成29年度　審判員の目標　】

（公財）日本ハンドボール協会審判委員会
日本ハンドボール協会指導委員会

1　正しいステップの評価と判定　（競技規則　7:3(a)～(d)）

ゲームがスピードアップされ、身体接触を含む１対１の局面がより厳しくなり、ボールを使ったテクニックやフェイントのテクニックが発達した。
レフェリーは「感覚」のみに頼ることなく、プレーヤーの技術を正確に見極め、正しく判定することができるように絶えず研修と分析を行うこと。

①ステップを判断するための重要な２つの基準
○プレーヤーがボールをキャッチしたり、つかんだりした瞬間を正しく観察する。
○キャッチした後、床への着地をどのようにしたのかを正しく観察する。

②ドリブルが終了した後の１歩は、例外なく「１歩」と数える
○ドリブルの後、ボールを持って１・２と歩いた後、再び１・２と歩くステップを正しく見極める（２歩＋２歩の典型的なステップ）。

2　ハードプレーとラフプレーの見極め　（競技規則　8:1～3）

競技規則第８条「相手に対する動作」は攻撃側、防御側の双方にあてはまる。レフェリーは身体接触の際、両者の位置関係はどうであったのか、先に位置をとっていたのはどちらのプレーヤーなのか、また違反があったが、その違反を受けたプレーヤーへの影響はどうであったのかを正しく見極めなければならない。

①防御側プレーヤーが攻撃側プレーヤーの正面に位置し、攻撃側プレーヤーの安全面を保障することが前提であれば、接触の度合いが強かったとしても、これはハードなプレーとして認めるべきである。これは、防御側プレーヤーが攻撃側プレーヤーの正面を維持しながらついていく場合も含まれる。

②たとえ正面であっても、空中でパスやシュート中のプレーヤーや、高速で走っているプレーヤーを突き放すような行為は、ラフプレーであり、許されない。

③横や後ろからボールを対象とせず、不利な位置から接触を試みたならば、競技規則８の２、８の３の判断基準をもとにラフプレーとして判定する。レフェリーはアドバンテージを考慮し、即座に違反を判定するのではなく、違反を受けたプレーヤーが競技を継続できる可能性がある場合は、競技を中断してはならない。

＜研修課題＞
○ 2016 年度新競技規則について、競技規則書および通達等を参考に正しく理解し、ゲームの中で適切に運用する。

○指導者研修会等に積極的に参加し、コーチサイドとの情報交換を密に行う。